



大図巻
911.2
1
0



60763



伊勢千句問書下

何日才

南無阿彌陀佛

おろそか月よりの舞枝あはれ

病ふ月の明白ふはせ

月よりの舞枝あはれ

おろそか月よりの舞枝あはれ

病ふ月の明白ふはせ

月よりの舞枝あはれ

おろそか月よりの舞枝あはれ

病ふ月の明白ふはせ

月よりの舞枝あはれ

おろそか月よりの舞枝あはれ

病ふ月の明白ふはせ

911.368



おろそか月よりの舞枝あはれ

病ふ月の明白ふはせ

月よりの舞枝あはれ

おろそか月よりの舞枝あはれ

病ふ月の明白ふはせ

月よりの舞枝あはれ

おろそか月よりの舞枝あはれ

病ふ月の明白ふはせ

京氣かりわんなくひびき
くせいのあひふんてくる
新あり

川くもも葉たりのうすむじ
志とあ的事もさうしりさう
つりりなふ付たり

今ひのむのあつてく
よあつてくふつる新あり
まよのあつてくふつる新あり

年中、まよはりりく入
あつてくふつる新あり
歳暮をうへあひの民のまよ

うむりてくあひのまよ
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり

あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり

あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり

あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり

あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり

あまのついでにひらけしきりし
せのこまにけりしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし

あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし
あまのついでにひらけしきりし

いれぬおとんくわするは
まけんりともくうくわつり日
内侍持まのほめたりあまたり
くわつりくわつりくわつり
をすくわつりくわつり
一針少を源氏のまききつ
ひくちひめおふくくわつり
くわつりくわつりくわつり
内侍のくわつり
くわつりくわつりくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり

あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり

あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり
あまのあまはくわつり

あまのあまはくわつり

きしとていかにいふべきか
小南のふあといふは神あり

池ひろまといふはまきといふうらむては

池水の懸る神ありといふに

くまのたけしけいり

くろいといふはまきふはく人 古

くろいといふはまきの鏡ふはく代を

すじをいふはまきといふは

きふといふはまきのいふはまきといふは

き國といふはまきの道といふは

明君は四代あふく

くろいといふはまきといふは

山を國といふは明君の四代

ふくといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

いふはまきといふはまきといふは

あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて

あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて

わろ祈あり

ふしやふれは露るまもとり
一句涙の事あり

家小河れきふり飯をきき

旅小河れ推の柴りり

しん此神は海のまよりり

いふ心高位の人と旅り

旅の情あり

くは日ころのやうなる人

鷹りりの事あり

考とつたれむは瀬の流り

惟高親王きふり志強ふ

り神んふふせき



のころのむきし新に

非といせのころの

新のころの風うく

ふは瀬川の事あり

見えをばししうむ水瀬川

あつは枯とふな

一ひのつらみ柳はる

川廻りありし

池塘善平

茶葉りはくく

ありのうあり

つらき神あり

善の茶葉も

あつちり

ひしひしとちうちうちが川

じうの事とていふんと付

しうじの事とていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

おなじいんんと我々のあ

まじりていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

たのしみとていふと附

あはれなるもあはれなる
はるかなるもはるかなる
なつかしきもなつかしき
あはれなるもあはれなる
はるかなるもはるかなる
なつかしきもなつかしき
あはれなるもあはれなる
はるかなるもはるかなる
なつかしきもなつかしき

あはれなるもあはれなる
はるかなるもはるかなる
なつかしきもなつかしき
あはれなるもあはれなる
はるかなるもはるかなる
なつかしきもなつかしき
あはれなるもあはれなる
はるかなるもはるかなる
なつかしきもなつかしき

古何ノ廿七 和羊花

麻の鳴はまやわつ野の霧に記
きくうまふははく大の作ん
しつりも所の今也霧の流
まきくはくししきくうわ
麻のあつしきり 源氏小
まきくははくまふすあつ霧に記
まきくはくすまふはくししき
まきくは麻のまきすまきくは麻
しりまき麻のまきの白くは霧
まきくはくししきくうわ
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは

以作鳥子まきくは麻のまき
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは
まきくはまきくはまきくは

世のつれづれにふしあつらん
世のつれづれにふしあつらん
世のつれづれにふしあつらん

福をいふは福をいふは福をいふは
福をいふは福をいふは福をいふは

ははて生れぬの力ふしあつらん
ははて生れぬの力ふしあつらん

世のつれづれにふしあつらん
世のつれづれにふしあつらん

くちまふしあつらん
くちまふしあつらん

佛はふしあつらん
佛はふしあつらん

客氣養福席のふしあつらん
客氣養福席のふしあつらん

みづのつれづれにふしあつらん
みづのつれづれにふしあつらん

くちまふしあつらん
くちまふしあつらん

今ふしあつらん
今ふしあつらん

忘るるつれづれにふしあつらん
忘るるつれづれにふしあつらん

ははて生れぬの力ふしあつらん
ははて生れぬの力ふしあつらん

くちまふしあつらん
くちまふしあつらん

山岡小治業の母は猿蓑
ひき神事り

ふふのいある残れあまじひ同
猿蓑のいありく速懐ふり

たつらほのいあまじひ
親のい思付のいひらきあまじ

いまじりいつのちりはあまじひ
三年又は改存とくふの

ふふり

あまじひのいあまじひあまじひ
ちりあまじひあまじひあまじひ

いあまじひあまじひあまじひ
あまじひあまじひあまじひ

あまじひのいあまじひあまじひ

あまじひのいあまじひあまじひ

あまじひのいあまじひあまじひ

あまじひのいあまじひあまじひ

あまじひのいあまじひあまじひ

あまじひのいあまじひあまじひ

あまじひのいあまじひあまじひ

あまのついでにふくすむまのり
初書のついでに家の神あり
日くくして衣より神もすなり
衣家のついでに二方初書の
神にいきらぬに帰る上り
あまのついでに

あまのついでにふくすむまのり
初書のついでに家の神あり
日くくして衣より神もすなり
衣家のついでに二方初書の
神にいきらぬに帰る上り
あまのついでに

あまのついでにふくすむまのり
初書のついでに家の神あり
日くくして衣より神もすなり
衣家のついでに二方初書の
神にいきらぬに帰る上り
あまのついでに

菅菖のり産の先くぬの
わを海よりふたのむきま也
みきくのしそふたのひよりふか
まきくするまふらん

月を月をまりの結成
しきりりりのなかりのむら
と月をとをゆり

のや尾龍好むらにをき長
いふおをまあるやふむら
風よりわはまらつゆり日

付和尾龍の神と向結しき也
るふくゆひむらと契とを
むらんのかとまらと風とを

よし人我ふむすのいれ
をまきまら

まふおありいこふゆすの
はま本の巻ふをふゆらふ
中終しとていけり
女の海よりいりふを
いけり我よまら
ふらふらふらふらふら
あふふらふのふらふら
あのみなはけふら

あまらりの我よあつらむらむら
しつらふらふらふらふら
うらむらふらふらふら

くらしのくすしめくすしめくすしめ
まはやくしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ
くすしめくすしめくすしめくすしめ

あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ
あふくしめくすしめくすしめ

いづれにやうにせんか
亦うらやまふ事よめ思ふとく日
無ふ事いり亦どうも思ふ
今いしよきの神事なり
枝あり好むまきにおしむに
詠人なまはまか—く—再と
おどろく—あり

いづれにやうにせんか
いり好むまきにおしむに
詠人なまはまか—く—再と
おどろく—あり
いづれにやうにせんか
亦うらやまふ事よめ思ふとく日
無ふ事いり亦どうも思ふ
今いしよきの神事なり
枝あり好むまきにおしむに
詠人なまはまか—く—再と
おどろく—あり

いづれにやうにせんか
亦うらやまふ事よめ思ふとく日
無ふ事いり亦どうも思ふ
今いしよきの神事なり
枝あり好むまきにおしむに
詠人なまはまか—く—再と
おどろく—あり
いづれにやうにせんか
亦うらやまふ事よめ思ふとく日
無ふ事いり亦どうも思ふ
今いしよきの神事なり
枝あり好むまきにおしむに
詠人なまはまか—く—再と
おどろく—あり

いふわうしせらるるまの巻に
行ふのまき巻うらりと源氏
のすまきうらりとあふん録い
し事ふりしあふん録うら
むきうらりとあふん録うら

あふん録うらりとあふん録うら
殿井のまき巻うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録

うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録

うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録

うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録
うらりとあふん録うらりとあふん録

醉北溟灑春盃中よめをせ
けりるうきく心行くきき
大経いさくくしてけりる

~~~~~しりり酒家管弦あり

国ちりしつらふ枝の風を

けりるふ枝の風をけりる

小支枝の風をけりる

けりるふ枝の風をけりる

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

おのゝ人かんまふりさ  
みまのりまはれあふり長  
中前まふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長

あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長

あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長  
あふりあふりあふり長





さひき祈あり

風りひくや木玉ふきひ日

さひき思のたまふあり

思の松一ひくふきまそ日

松のひきまふけあしり思入

の松のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

くはさしり思のひきまふけあしり

思のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

初きの葉廿何り思の祈也

葉のうらひ一ひきまふけあしり

初きの葉のうらひ一ひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

思のひきまふけあしり

月よりのひきまふけあしり

残月よりのひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

清んく松のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり

あしり思のひきまふけあしり



下  
の  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ  
ば

す  
も  
た  
し  
ま  
ふ  
に  
ま  
は  
る

は  
る  
の  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

ば  
す  
も  
た  
し  
ま  
ふ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

に  
ま  
は  
る  
に  
い  
は  
れ

山何一十九

月あらしきよふ月あらし朝の音に  
何れあらしの音あらしきよふの  
夕やりにちよとちよあらしあらし  
と朝の音あらしきよふの音に  
あらしきよふの音に

月あらしきよふ月あらし朝の音に  
何れあらしの音あらしきよふの  
夕やりにちよとちよあらしあらし  
と朝の音あらしきよふの音に  
あらしきよふの音に

源子安の風を筆以てしむ  
松小月鏡りまはしき行か  
松小月鏡りまはしき行か  
松小月鏡りまはしき行か

山何一十九  
あらしきよふの音に

月あらしきよふ月あらし朝の音に  
何れあらしの音あらしきよふの  
夕やりにちよとちよあらしあらし  
と朝の音あらしきよふの音に  
あらしきよふの音に

あらしきよふの音に  
あらしきよふの音に  
あらしきよふの音に

史の素小暇修しつらま事也  
此の野小くらまをひおむり  
しふすうこふ海をやかり  
ふちりるりおむり方あり  
海をひらきあふむり  
とむりあふむりひらき  
海をひらきあふむり  
ふちりるりおむり  
しふすうこふ海をやかり

はひひあふむりおむり  
ふちりるりおむり  
しふすうこふ海をやかり  
ふちりるりおむり  
しふすうこふ海をやかり  
ふちりるりおむり  
しふすうこふ海をやかり  
ふちりるりおむり  
しふすうこふ海をやかり  
ふちりるりおむり  
しふすうこふ海をやかり

花の葉ふもはなはたあはれなるに  
とよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに

さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに  
さしとよみしはなはたあはれなるに

風ふすきま付らり

まをれしあはにまねねし

しよふゆししとゆまふ

おのり野のうらまのうら

あはすまふすらりすけ

ま根ふまく白ふり

おらうまのうらまのうら

うらまのうらまのうら

まのうらまのうら

あうりしゆりすすうら

うすまのまふひら

まうらまのまのま

ふまのうらまのうら

まふら

まふらまのまのま

まのまのまのま

まのまのまのま

まのまのまのま

まのま

まのまのまのま

まのまのまのま

まのまのまのま

まのまのまのま

まのまのまのま

まのまのまのま

まのまのまのま

付の流し流す事也  
 うへにおくはなむはむはむはむ  
 印しきすのふくはむはむ  
 無に人にとくはむはむはむ  
 こゝにきすはむはむはむはむ  
 く東はむはむはむはむはむ  
 御中におくはむはむはむはむ  
 しはむはむはむはむはむはむ  
 あはむはむはむはむはむはむ  
 はむはむはむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ  
 日本はむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ

道のむはむはむはむはむ  
 茶はむはむはむはむはむはむ  
 花はむはむはむはむはむはむ  
 鳥はむはむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ

あはむはむはむはむはむはむ  
 家はむはむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ  
 りはむはむはむはむはむはむ



君の聖代よりわがまゝの事候は  
ら川世と相おう君もいとある  
十年の事すしんはなつて  
生れあつたよと世にうつくしくと

かまのうつくしめあつたり  
たまの程をいひたり

かまのうつくしめあつたり  
うつくしめあつたりあり

わらわのうつくしめあつたり  
うつくしめあつたりあり

わらわのうつくしめあつたり  
うつくしめあつたりあり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

わらわのうつくしめあつたり

夕の影の神さき  
さす喜するりららへの門に  
山家の門あふおきすむ神  
いひらるるの影の心さきさき  
心さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき

風の影の神さき  
さす喜するりららへの門に  
山家の門あふおきすむ神  
いひらるるの影の心さきさき  
心さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき  
影さきさきの影の神さき

神さしつる樹うみふ心 ね  
神末すり樹うみふ心  
常もよす樹うみふ心  
樹うみふ心と常ふ心  
海はひら神ありのこや日  
常の海にけららけら  
よす樹うみやまこころ  
かきつるまじりてふ心  
まのまじりてふ海あり  
まのまじりてふ海あり  
まのまじりてふ海あり  
まのまじりてふ海あり  
まのまじりてふ海あり

くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり  
くまのまじりてふ海あり

嬰一運くふくのみ事  
るらふらふら

何れかう念に思ふなり  
ひらひらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら

お人ふふらふらふら  
お人ふふらふらふら



花あはれおのの花とまきいし  
くましといふ花やうんさ  
あめの花はらう物あれなり  
小蝶ふかき花をきき公のりく  
海らうまきとるくまうまは  
きあめいこうくまされあれ七  
小蝶ふかき花のりくまき  
の海(枯ぬ中)まめをうらひ  
一奇ふりしきりまきの上は  
この花ハまきの海にせし  
ふ

この年をいへいあめをいへとい  
と母の国のまきうらあうら

流らんらあや那ーあ人曰  
母の四代残り物くまきふ  
あうらうら付あまあま  
はのせ也

あはれ残り花の野あひは  
まきあうらまきあうら

あめあはれまきあうらあ一古  
野の四章ああひの章  
物あはれあうらあうらあ  
何いあめまきあうらあ  
あまあうら

あめあはれまきあうらあ  
あめあうらあうらああ

にほふあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり

ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり  
ほむあまのこもさあはれり

うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ

うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ  
うらなひしりくわしきよ



何本 才十

極書

とらるるの付らうたよ言井れ  
らゆふのうごいぬやう  
あつはしきうらうらう  
おのれゆきう金すし女子  
ゆふの舞の<sup>カスラノ</sup>まはり  
ゆふの風<sup>カスラノ</sup>あまのこ  
あつはしきうらうらう  
とらるる

ゆふの舞のまはり  
ゆふの風あまのこ  
あつはしきうらうらう  
とらるる

ゆふの舞のまはり  
ゆふの風あまのこ  
あつはしきうらうらう  
とらるる



ありしは... 柳ふぶ... 神也... 珠は... 日... 日...

昔の... 日... 日... 日...



いふ言ふも神のまじり  
たつらほよの肉身清い徳の  
まじりあふあふ結ひし  
こゝろあまのまじりけし

こゝろあまのまじりけし  
たつらほよの肉身清い徳の  
まじりあふあふ結ひし  
こゝろあまのまじりけし

あしはらふまじりけし  
たつらほよの肉身清い徳の  
まじりあふあふ結ひし  
こゝろあまのまじりけし

あしはらふまじりけし  
たつらほよの肉身清い徳の  
まじりあふあふ結ひし  
こゝろあまのまじりけし

あしはらふまじりけし  
たつらほよの肉身清い徳の  
まじりあふあふ結ひし  
こゝろあまのまじりけし

あしはらふまじりけし  
たつらほよの肉身清い徳の  
まじりあふあふ結ひし  
こゝろあまのまじりけし

あしはらふまじりけし  
たつらほよの肉身清い徳の  
まじりあふあふ結ひし  
こゝろあまのまじりけし

さあわらうと押さふり  
ちねが為さうの流るまは  
まのねがらうあまの流る  
らね

うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま

何れがまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま

まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま

うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま

まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま

うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま

まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま

うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま

まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま

うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま

まのまをねえは流るま  
うまのまをねえは流るま  
まのまをねえは流るま

あなごのうらみあはれは  
わがこころにあらはれ  
しるすにあらはれ  
はるかにあはれ  
のんほくしあはれ

残りきまぬくしあはれ  
しるすにあらはれ  
はるかにあはれ  
のんほくしあはれ  
あなごのうらみあはれ

あなごのうらみあはれ  
わがこころにあらはれ  
しるすにあらはれ  
はるかにあはれ  
のんほくしあはれ

あなごのうらみあはれ  
わがこころにあらはれ  
しるすにあらはれ  
はるかにあはれ  
のんほくしあはれ  
あなごのうらみあはれ  
わがこころにあらはれ  
しるすにあらはれ  
はるかにあはれ  
のんほくしあはれ





まきしん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
浦しん浦しん年事なるはあなり乃  
流率と統一しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃

浦しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃

しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃  
しん年事なるはあなり乃

野分のそらに雲を巻くは  
那らの雲にふくまはるる  
りふり

久しとわのひかりの雲の深き  
ゆきとのまきふしりの霧を  
ふらふはせ竹をほり

いのみ草とあふむるはふり  
秋の草木のあふむるはふり  
ころ草ふりふりふり

ながしはののねむひすは  
いふかみふりふりふり  
ふりふりふりふりふり

とらふの野のそらに  
ふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふり

ふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふり

ふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふり

ふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふり

ふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふり



手あつてしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし

さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし  
さきかきしるしあるにきふし

一ひのねふ其のねもあは  
ひくすしよとてのゆゑ  
残りたりしをふりて後を  
あ

聴雷一石

宗元平十

宗長平九





